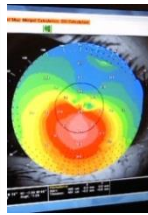




フジタガンカニュース

Vol.37 2013.10.21



眼鏡処方箋の院外対応について-後編-

では前回号からの続きです…それ(先月号を参照)が出来なければ、経験値に裏付けされたとは言っても所詮一人よがりな技術でしかなく「当たり外れの大きい技術」となるのです。これは我々のような開業医にも言えることで、僕はそこを重要視するからこそ今だに八王子医療センターにお邪魔して外来や手術に携わっています。教授・講師の先生方だけでなく若手の先生からも学ぶ事が多々あります。患者さんや顧客のある仕事に関わる限りこうした「ベテランになっても独りよがりにならない姿勢」はとても大切なことだと思っています。という事情を考えると②よりも社内での切磋琢磨がある①の方が、より高度な技術が望めるというのは自明の事のように思えます。

メガネを作る場合に「眼科で処方箋をもらってメガネを作る」という行動は、日本国内の現行法規上では理に適っている行為です。眼鏡は医療用具ではないため直接メガネ店に行きメガネ作成をすることも可能ですが「メガネを作りたい欲求がある」という事は「見え方に何かの不自由がある」という事なので、メガネ店での眼鏡作成という対策のみでは眼疾患を見落とされる可能性があるのです。原則論を言えば、まずは眼科での疾患の有無の検査が大切なのです。また、直接メガネ店に行く場合に、新たなメガネを調整して試し掛けてみてもよく見えない事があります。こうした場合、悪徳なメガネ店であればナンダカンダとゴツツけてとりあえずのメガネを売りつけてしまうかもしれません。後々、眼科で疾患が見つかり治療されるとメガネの度数が変わることはよくある事なので、その場合にはメガネが作り直しになっちゃいますよね。良心的なメガネ店であれば「メガネを調整しても十分な見え方を達成できません。メガネ作成は一旦中断して眼科での検査を受けたほうが良いですよ」と、お店の利益よりも患者さんの目の健康状態を優先した指示を出してくれます。しかし、患者さんによっては「早くメガネが欲しくて困っているのに面倒なんだよなあ…」なんて、逆恨みしちゃうこともあるようですけどね(^^;)。また、そうした指示での眼科受診から白内障・緑内障や黄斑変性など、目の病気が発見されることもしばしば…。実はメガネ店というものは、眼科において医療的な側面も担う重要な存在な訳です。

また、技術力の不十分なメガネ屋さんで安価なメガネを作ると「見えることは見えるんだけど疲れやすくて…」等の不調も多く…原則として度数の決定は我々眼科医に任せて頂ける方が安全です。売上げ重視のメガネ店では「その場でよく見える」事を重視しないとメガネを買い上げてもらえないので「度を強めに入れる」傾向が強いのです。誰だって見えないよりも見えた方が良いでしょう。ただし、強すぎる調整をされたレンズは長時間の使用に耐えなかつたり、お子さんの場合には近視の進行を助長したり、色々なトラブルの元となる事があります。ただし、眼科医は「メガネの専門家」ではないので…「技術力の無いメガネ屋さん」よりは度数決定が上手ですけど、「技術力の高いメガネ屋さん」と比較すると我々の方が技術的に劣っているように思えます。こんなことを正直に告白して良いのかどうか分かりませんが、たとえばメガネのレンズ一つをとってもメーカーによって見え方に特徴があったりだとか…そこまで専門的な知識は僕らでは到底わかりませんし眼鏡処方箋にレンズのメーカーの指定までするのは一般的ではありません。すると、たとえ眼鏡処方箋を発行したとしてもそれを持ち込むメガネ店の技術によって出来上がるメガネに差があるというのは当然な訳です。こうした①技術力のあるメガネ店スタッフは我々眼科医よりもメガネの処方決定が上手である事②眼鏡処方箋はメガネ作成に関する参考値に過ぎず、最終的な完成型のメガネを規定する決定力を有さない事などの事情から、私の方針として「可能な限り眼鏡の院外処方箋の発行は控えたい」と考えています。当院は現在「オグラメガネ」との提携契約をさせて頂いていますので、オグラさんとメガネを作成して頂ければ「作成後のアフターケアにも責任が持てる」ので、原則はそうした対応を取らせて頂いております、ご了承下さい。またオグラさんとの契約を結んでいる理由については、当院を担当している近藤さんは八王子医療センターにも出張してメガネ処方の担当をしています。つまりセンターで僕と一緒に仕事をしていた経緯があり、そう

した経験から彼の処方技術が高い事を知っており「この人の技術は信頼がおける」と僕が判断し当院への出張をお願いした次第なのです。実は僕のメガネも彼が合わせてくれています。ただ、メガネ屋さんと患者さんの関係性には様々な要因があるため「相性」めいた物が存在するのも事実です。過去にオグラメガネさんとメガネをお願いして「あまり芳しい結果とらなかった」方もあるかと思いますが、もしも近藤さん以外の店員さんの担当であったとすれば、一度は近藤さんをお願いしてみたい(試し掛けだけで最終的にメガネ購入に至らないとしても勿論 OK です)のですが、それでも十分に満足が得られない場合には他のメガネ店での作成が望ましいという事になります。(メガネでの視覚改善には限界があるため、結果的に他のメガネ店での作成でも同等の結果となる可能性もあると思います)ただ、その場合には「総合的なメガネの作成」を依頼する訳ですから「度数決定も含めてそちらのメガネ屋さんをお願いをする」べきと考えています。また、度数決定もお願いすることになる訳ですから、技術力を考慮すると④のメガネ店は避ける方が賢明です。(微妙ですが③もできれば避けた方が…)また、メガネ店によっては完成後の眼鏡への不満が生じた場合の責任を転嫁する目的で、眼科発行の処方箋を求めめるケースもみられます。メガネの好不調は総合的な技術によって決定される事項なので、不調の理由を処方箋のためだけと限定されてしまうのは…我々眼科医にとってそれはそれで困惑する話な訳です。これが私が「可能な限り眼鏡の院外処方箋の発行は控えたい」と考えている第3の理由です。一般的ではないアイデアかもしれませんが、ご理解頂きたく存じます。

メガネのレンズは透明で…そんな透明な物を売っているのがメガネ屋さんで…レンズの度数があっているかどうかなんて素人の皆さんに正しく判断するのは難しい訳です。「見えるんだから大丈夫」というのは、案外そうでもなかったりするんですよ。つまり、価格にばかりとらわれず「信頼のおけるメガネ屋さんをチョイスするべき」なのは当然なんですよ。当院でのメガネ処方に関する方針について一定のご理解が頂けたでしょうか? どうしてもご希望があればメガネの院外処方箋にも対応はしますが、責任の所在が不明瞭になってしまうので正直僕としては「請け負いたくない」行為なのです。理由は上に書いてある通りです…スミマセン(^^;)。また、今回の一連のニュースに関してオグラの加藤さんから一言。「メガネは一度作成してそれで終了という物ではありません。使用していると、フレームが変形したり鼻アテの具合が変化したり…本来、定期的な調整を要する物です。店舗でも藤田眼科でも構いませんので、何か気になった時にはお気軽に声を掛けて頂けると良いと思います。度数と同等にフレームの形状維持も重要な事ですよ。(^^)/」だそうです。

	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
AM	○	×	×	×	×	○	×	○	○
PM	×	×	×	×	×	○	×	×	×

※ ×…休診 ○…通常診療

※1月2日は、当院が多摩地区の休日診療当番にあたります。このため、遠方からの来院もあり、診察待ち時間が長くなる事が予想されます、ご了承下さい。

今月のお知らせ

11月1日(金)午後、11月2日(土)は院長が臨床眼科学会に出席するため、当院は休診となります。ご迷惑をお掛け致しますが、宜しくお願い申し上げます(´_`)。



<http://www.fujita-ganka.com>



FUJITA-EYE-CLINIC

藤田眼科

エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)



P-Vision

☎ **042**
(645)
0575

☎ **042**
(642)
2911